

第二部教育課程

共通科目

区分	授業科目名	単位数		毎週授業時間数										備考					
		必修	選択	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次							
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
理系基礎	線形代数Ⅰ	2		2															
	線形代数Ⅱ		2		2														
	微分積分Ⅰ及び演習	4		4															
	微分積分Ⅱ		2		2														
	力学	2		2															
	電磁気学		2		2														
	化学		2		2													D	
				2														M, E, S	
	基礎物質科学		2			2												D	
				2														M, E, S	
	地球科学		2					2											
	生体機能科学		2					2											
	情報技術Ⅰ	2		2															
情報技術Ⅱ		2		2															
技術史		2				2													
計		14	14	12	10	2	4										D		
		10	18	12	10	2	4										M, E, S		
ものづくり・経営基礎	ものづくりデザイン		2	2															
			2	4														機械工学科対象	
	工学表現技術		2									2							
	法工学		2								2								
経営管理工学		2								2									
計			8	2							4		2						
			8	4							4		2					(機械工学)	
リベラルアーツ	科学技術英語	科学技術英語Ⅰa	2		2														
		科学技術英語Ⅰb	2			2													
		科学技術英語Ⅱa	2				2												
		科学技術英語Ⅱb	2					2											
		総合外国語Ⅰ		2	2														
		総合外国語Ⅱ		2		2													
	人間文化	異文化理解		2															
		価値と文化		2															
		国際関係論		2															
		憲法		2															
		生命の科学		2			4	2	4	2									
		現代社会論		2															
		科学史		2															
	対人コミュニケーション論		2																
健康運動科学	体育実技Ⅰ	1			2														
	体育実技Ⅱ	1				2													
	健康運動科学演習		2															集中	
計	10	24	4	6	10	4	4	2	0	0	0	0							

第二部 教育課程

専門教育科目

機械工学科

区分	授業科目名	単位数		毎週授業時間数										備考				
		必修	選択	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次						
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
専門教育科目	導入科目																	
	流れの科学	2				2												
	工業数学		2		2													
	基本科目	工業力学	2			2												
		流体力学Ⅰ	2				2											
		材料力学	2				2											
		熱力学	2				2											
		機械材料	2					2										
	準基本科目	制御工学	2						2									
		弾性力学	2						2									
		流体力学Ⅱ		2					2									
		機械熱力学	2				2											
		加工の力学	2						2									
	展開科目	ターボ機械基礎		2						2								
		機械要素デザイン工学		2						2								
		システム制御		2						2								
		電子機械工学		2							2							
		エンジン工学		2						2								
		伝熱学		2						2								
		精密プロセス工学		2							2							
		トライボロジー		2							2							
		成形プロセス工学		2							2							
		燃焼工学		2							2							
		物理化学		2				2										
		材料科学基礎		2									2					
		セラミックス材料概論		2									2					
		プログラミング基礎		2				2										
		確率・統計		2				2										
	構築材質学		2						2									
	環境生態学		2										2					
	実験・演習科目	機械製図	2				4											
		機械工学実験	2									4						
		設計製図	2										4					
機械技術総合演習Ⅰ			4								4							
機械技術総合演習Ⅱ			4								4							
卒業研究ゼミナール	6											6	6					
特別講義	技術開発特別講義		2								2							
	特別講義Ⅰ		1									1						
	特別講義Ⅱ		1									1						
計	32	50	0	4	8	12	16	14	16	12	6	6						

教 職 課 程

第二部

免許教科:工業

教科に関する科目	単位数 (○印は必修)	毎週授業時間数										備 考	
		1年次		2年次		3年次		4年次		5年次			
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
工業の関係科目	⑩												
職業指導	④										4		

教科又は教職に関する科目	単位数 (○印は必修)	毎週授業時間数										備 考	
		1年次		2年次		3年次		4年次		5年次			
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
工業の関係科目	16												

教職に関する科目	単位数 (○印は必修)	毎週授業時間数										備 考	
		1年次		2年次		3年次		4年次		5年次			
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
教 職 概 論	②					2							
教 育 原 理	②					2							
教 育 ・ 青 年 心 理 学	②						2						
教 育 行 政	2									2			
工 業 教 育 法	④					2	2						教育課程の意義を含む
情 報 処 理 教 育	②								2				
特 別 活 動	②								2				
生 徒 指 導	②								2				進路指導を含む
教 育 相 談	②							2					カウンセリングの概要を含む
総 合 演 習	②								2				
事 前 ・ 事 後 指 導	①							1					
教 育 実 習	②							2					

授業科目名	職業指導	担当教員名	石田 正治, 上原 直人
学部・大学院	工学部第一部	年次	4
科目区分	教職課程	単位数	4
時間割	前期 水曜 3-4 限 後期 水曜 3-4 限		
授業の目的・達成目標			
<p>授業の目的：高等学校における職業指導を中心とした進路指導，さらにこれらと関係の深いキャリア教育に必要な基礎的知識の習得を目指す。達成目標：この科目は、高校工業科の科目を担当する教員になることを念頭において、職業指導とキャリア教育に関する理論と実践を学習する。また、受講生自身の大学卒業後の社会的・職業的自立に向けての人格の形成とその資質を高めることを目標とする。</p>			
授業計画			
前期			
1～5	職業指導・進路指導・キャリア教育の歴史と展開 アメリカにおける職業指導、キャリア教育の歴史 日本の職業指導、進路指導、キャリア教育の歴史と現状		
6～10	職業指導・進路指導・キャリア教育の基礎理論		
11～14	進路指導・キャリア教育の諸活動		
15	前期のまとめ		
16	試験		
後期			
1～2	職業指導と法規		
3～5	工業高校における専門教育の内容と進路指導、キャリア教育の実際		
6～8	工業高校における進路指導・キャリア教育の組織と運営		
9～12	若者の職業意識と就業実態の変化、日本の企業の雇用実態の変化		
13～14	職業指導、キャリア教育の課題と展望		
15	後期のまとめ		
16	試験		
成績評価の方法と基準			
<p>授業時の課題レポートおよび前期末および後期末の筆記試験によって評価する。各期の筆記試験はそれぞれ40点満点、各期のレポートはそれぞれ10点満点、計100点満点とし、60点以上を合格とする。</p>			
履修にあたっての注意事項および教室外における準備学習などの指示			
<p>(1) 講義形式が中心であるが、教科書の内容について課題を課し、授業時に報告、発表させる。 (2) 授業では教科書以外の内容について多く言及する。教科書は必読文献と心得て、一通り予習として時間外で熟読しておいてほしい。</p>			
教科書			
日本産業教育学会編『産業教育・職業教育学ハンドブック』大学教育出版			
参考書			
授業時に適宜紹介する。			
オフィスアワー			
水曜日、3・4限終了後。			

授業科目名	職業指導	担当教員名	鷺見 克典
学部・大学院	工学部第二部	年次	5
科目区分	教職課程	単位数	4
時間割	後期 金曜 1-4 限		

授業の目的・達成目標

【資格がものをいう時代です。ぜひ高校教諭免許(工業)をとりましょう】

1. 授業の目的：

職業指導は、進路指導とも呼ばれる教員免許取得のための科目です。

職業指導の目的は、生徒に対して、自己理解と進路情報をもとに、社会環境の変化に即応し、主体的に職業・進路を選択・決定できるよう教育するために、知識と実践技術を獲得することです。

また、将来の教育者として、何事にも真剣に取り組み、常に誠実で、責任ある成熟した人間を目指し、また他者をそのようにあるよう指導する技量を身につけようとする姿勢をもつことです。

そのため、本講義では、他者の進路・キャリアの助言・促進を行う者、自らのキャリア形成を行う者にとって、参考・モデルとなる事例、考え方、心構え・信念などを、職業人としての経験・エピソード、見聞、独自の視点・考察などを盛り込んだ実際的な内容を盛り込んだ講義を行います。

なお、本講義は教員免許取得のために法律によって義務づけられた履修科目です。教師になるための科目であり、卒業単位とは無関係など、一般の講義科目とは異なる点に十分留意し、受講して下さい。

2. 達成目標：

高校教員として、自分自身が成熟した人間になり、また生徒（高校生）を成熟した人間へと指導・教育する技量を身につけよう、生徒に対する適切な職業指導（進路指導）ができる知識と実践技術を習得すること。

授業計画

- ① 1週：職業指導の意味とその重要性、職業指導を行う者の心構えについて概説する。
- ② 2- 4週：職業選択と学校教育：選択規準・必要な知識と経験・他者の支援、職業適性。
[達成目標：実際の職業選択、多様なキャリア・職業、学校教育との関連を理解できる]
- ③ 5- 7週：キャリアカウンセリングの意義：教育相談、キャリア形成、人材開発、アセスメント
[達成目標：キャリアカウンセリングの意味を把握し、アセスメントについて理解できる]
- ④ 8-10週：今日の職場における問題：経営施策、経営環境、組織制度、問題解決技法。
[達成目標：職場を取り巻く環境、多様な問題を理解し、対処について考察できる]
- ⑤ 11-12週：仕事への取り組みとウェルビーイング：モチベーション、働きがい、ストレス対処。
[達成目標：仕事における態度を理解できる。仕事生活の質と健康について考察できる]
- ⑥ 13-14週：職場集団のダイナミクス：リーダーシップ、人間関係、コミュニケーション。
[達成目標：組織そのもの、組織と個人、個人と個人の間を関係性を理解し、考察できる]
- ⑦ 15週：総括と期末試験
以上のテーマは必要に応じて分割・統合、前後の入れ替えを行う。

成績評価の方法と基準

本講義は教員免許取得のために法律によって義務づけられた教職科目です。

一般の科目と異なり、卒業単位とは無関係であり、免許取得のための特別な開講科目という性質に十分留意し、受講しなければなりません。

毎回のレポート、最終回の試験を中心に、受講態度を加味して評価します。

1. 単位取得の必須要件

(1) レポート未提出が1つもない

欠席回の方は必ず後日提出する必要があります。

(2) レポート及び試験の評価結果が合格点に到達していると判断される

(3) 受講態度が適切である

2. レポート及び試験の評価

講義内容の完全な理解あるいは完全な解答が満点.

最低限の理解が認められる場合が合格点.

3. 最終的な成績

毎回のレポート, 最終回の試験に, 受講態度を加味して総合的に決定します.

100を満点として, 60を合格点, 69点までが「可」, 90点以上が「秀」。

履修にあたっての注意事項および教室外における準備学習などの指示

1. 履修にあたっての注意事項

(1) eメールによる連絡(欠席, 受講確認, レポート提出等)は, 受け付けない。

間違いを避けるためです。講義時に申し出て下さい。

(2) 欠席・遅刻・早退は, 必ず申し出る。

事後で結構なので, 講義時に, 必ず申し出て下さい。

(3) 学生証等による打刻

講義態度の重要な要素である出欠席・遅刻・早退は, 出欠システムで確定します。

できない場合は, 必ず申し出て下さい。

(4) 欠席・遅刻・早退を「出席扱い」とする場合

証明できるもの(学生課発行の欠席届等)が必要です。

忌引きは連絡葉書, 事故・怪我は診断書, 仕事, 研究・実験は指導教員の証明 など。

(5) 欠席回の方のレポート

欠席の申し出があったときに指示します。必ず後日提出して下さい。

(6) 遅刻・早退の場合の追加レポート

提出を求める場合があります。遅刻・早退も, 講義時に, 必ず申し出て下さい。

(7) 最終回の試験を受けられなかった場合

試験日を含めむ 5日以内に, 担当教員に連絡し, 証明できるものを持参すること。

2. 教室外における準備学習

他者の進路選択, キャリア形成に関する助言・促進について関心を持ち, 参考書を中心とした講義外における準備学習と復習をしなければならない。

教科書

指定しない

参考書

「21世紀の進路指導事典」吉田他編(ブレーン出版)

「最新生徒指導・進路指導論」吉田著(図書文化社)

オフィスアワー

講義開講期間中の金曜日 17:00-17:30 に講義担当者の教員室で対応します

授業科目名	教職概論	担当教員名	上原 直人
学部・大学院	工学部第一部	年次	3
科目区分	教職課程	単位数	2
時間割	前期 集中		
授業の目的・達成目標			
<p>授業の目的：学校教育の中で、教師に求められる役割が大きく変わろうとしており、これまで以上に、教師の資質・力量の向上が求められている。「教師」について検討することは、教職についての知識獲得・理解、将来の教職観の形成、教職への動機付けの向上のために必要不可欠である。ここでは、教師の職務内容、現代の生徒、及び学校そのものについて基本的な問題から理解し、教職の意義及び役割について理解するとともに、教職への関心を高めることを目的とする。</p>			
授業計画			
1	教職の理解	(1) 教職の全体像	
2	教職の理解	(2) 学校場面における教師の仕事	
3	教職の理解	(3) 学級場面における教師の仕事	
4	現代社会における教師の悩み	(1) ストレスの諸要因	
5	現代社会における教師の悩み	(2) 学校組織・地域社会	
6	生徒の発達から教職を考える	(1) 学校生活にみられる生徒の成長	
7	生徒の発達から教職を考える	(2) 学級集団における生徒の人間関係	
8	学校・学級生活における生徒の悩みから教職を考える	(1) 不登校	
9	学校・学級生活における生徒の悩みから教職を考える	(2) いじめ	
10	生徒の学力	(1) 学力格差	
11	生徒の学力	(2) 学力と教育実践	
12	教師の成長	(1) 教師のアイデンティティ	
13	教師の成長	(2) 現代社会において教師に求められる力	
14	教師の成長	(3) 職業能力開発	
15	まとめ		
16	試験		
成績評価の方法と基準			
<p>定期試験やレポートの成績、授業への参加度（取り組み方）、授業への出席などにより、教職の意義や教員の役割・教員の職務内容の理解などについて、総合的に評価する。</p>			
履修にあたっての注意事項および教室外における準備学習などの指示			
教科書			
別途指示する			
参考書			
授業時間内に適宜照会する			
オフィスアワー			
別途指示する			

授業科目名	教育原理	担当教員名	上原 直人
学部・大学院	工学部	年次	4
科目区分	教職課程	単位数	2
時間割	後期 火曜 7-8 限		
授業の目的・達成目標			
<p>【授業の目的】: 教育という営みを学校だけに限定させて捉えずに、人間の一生涯との関連で捉え、心理学、社会学、行政学、経営学の視点もふまえながら、教育の本質について考える。</p> <p>【達成目標】: 広い視野に立って、教育という営みについての自分の見解を述べることができるようにするために、視聴覚教材も取り入れながら受講者の理解を促すとともに、随時、受講者の意見も求める。</p>			
授業計画			
1 オリエンテーション 2 教育の思想と原理Ⅰ 3 教育の思想と原理Ⅱ 4 教育の歴史Ⅰ 5 教育の歴史Ⅱ 6 学校と地域社会 7 教師の教育実践から学ぶⅠ 8 教師の教育実践から学ぶⅡ 9 教師の教育実践から学ぶⅢ 10 人間の発達と教育 11 学校教育改革のゆくえⅠ 12 学校教育改革のゆくえⅡ 13 社会構造の変容と教育Ⅰ 14 社会構造の変容と教育Ⅱ 15 もう一つの学校			
成績評価の方法と基準			
平常点（発言）、中間レポート、期末レポートで評価する。欠席は5回まで認める。合計60点以上を合格とする。			
履修にあたっての注意事項および教室外における準備学習などの指示			
履修するにあたっての要件は特にないが、日頃から、教育を中心とする社会問題に関して、新聞等を通して、チェックしておくことを求める。			
教科書			
レジュメ・資料を配布するので、教科書は使用しない。			
参考書			
随時、紹介する。			
オフィスアワー			
火曜日16時～17時。それ以外でも事前に相談があれば随時可能。			

授業科目名	教育・青年心理学	担当教員名	高村 和代, 上原 直人
学部・大学院	工学部	年次	4
科目区分	教職課程	単位数	2
時間割	後期 木曜 9-10 限		
授業の目的・達成目標			
<p>授業の目的：人間の発達を様々な視点から眺め、多面的に人間の理解を深める。さらに、その人間理解を基に、学校教育の現場で生徒とどのように関わっていくのかということ、教育心理学の視点から理解を深めていく。達成目標：現在の学校教育の問題点を考慮し、学校現場でどのような関わりを児童・生徒と築いていけばよいのか、学生自身が検討していく。</p>			
授業計画			
<ul style="list-style-type: none"> 1 発達心理学と教育心理学 2 青年期の位置づけ 3 青年期の身体発達 4 青年期の認知的発達 5 アイデンティティの形成 6 青年期の親子関係 7 青年期の友人関係 8 パーソナリティの理解 9 発達障害の理解 10 動機づけ 11 学習方法 12 教授方法 13 学級運営 14 近年の青年の特徴と教育の抱える問題 15 総括 			
成績評価の方法と基準			
授業時間内で課される課題および最終レポート 授業時間内で課される課題(20%) 最終レポート(80%)			
履修にあたっての注意事項および教室外における準備学習などの指示			
授業時間内の指示に従い、事前準備を行うこと。発言を求めることもあるため、積極的に授業に関わってもらいたい。			
教科書			
西口利文・高村和代(編) 教育心理学 ナカニシヤ出版			
参考書			
授業時間内に適宜照会する			
オフィスアワー			
非常勤講師のため、授業前後に対応する。			

授業科目名	教育行政	担当教員名	上原 直人
学部・大学院	工学部	年次	4
科目区分	教職課程	単位数	2
時間割	前期 集中		
授業の目的・達成目標			
<p>授業の目的：本講義の目標は、教育現象を社会的にアプローチする基礎的スキルを習得することである。そのため、教育社会学で扱われている主なテーマを扱う。</p>			
授業計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 社会とは 3 教育行政とは 4 学校の社会的機能 5 学校制度 6 教育と学歴 1 7 教育と学歴 2 8 教育と学歴 3 9 教育と学歴 4 10 教育と学歴 5 11 教育と職業移行 1 12 教育と職業移行 2 13 教育と職業移行 3 14 教育と職業移行 4 15 まとめ 16 試験 			
成績評価の方法と基準			
<p>定期試験やレポートの成績，授業への参加度（取り組み方），授業への出席などにより，教職の意義や教員の役割・教員の職務内容の理解などについて，総合的に評価する。</p>			
履修にあたっての注意事項および教室外における準備学習などの指示			
教科書			
別途指示する			
参考書			
オフィスアワー			
別途指示する			

授業科目名	工業教育法	担当教員名	
学部・大学院	工学部	年次	3
科目区分	教職課程	単位数	4
時間割	前期・後期 集中		
授業の目的・達成目標			
<p>授業の目的：工業の授業の立案・運用に関する総合的知識を習得させる。</p> <p>活動的な学びの教材例をもとに、授業の立案・模擬授業をもとに、①授業の目標・課題設定、②学びの場面の分節化、③発問と応答について授業実践の課題を学び取る。</p>			
授業計画			
1 オリエンテーション 2 工業教育を考える（1） 3 工業教育を考える（2） 4 模擬授業（20分間）の工業教育における単元上の位置づけを考えるとともに、授業案を考え、模擬授業のシミュレート、準備を行う。 5 模擬授業の実施・授業改善の検討会（1） 6 模擬授業の実施・授業改善の検討会（2） 7 模擬授業の実施・授業改善の検討会（3） 8 模擬授業の実施・授業改善の検討会（4） 9 中間まとめ 10 模擬授業の実施・授業改善の検討会（5） 11 模擬授業の実施・授業改善の検討会（6） 12 模擬授業の実施・授業改善の検討会（7） 13 技術科の授業論・教材論の動向 14 成長する工業の教師の授業研究とコミュニティ 15 工業の授業づくりに関する考察、レポート作成・代表者の発表 16 成長する教員になるための方策の検討、レポート作成・代表者発表			
成績評価の方法と基準			
定期試験やレポートの成績、授業への参加度（取り組み方）、授業への出席などにより、教職の意義や教員の役割・教員の職務内容の理解などについて、総合的に評価する。			
履修にあたっての注意事項および教室外における準備学習などの指示			
教科書			
別途指示する。			
参考書			
オフィスアワー			
別途指示する。			

授業科目名	情報処理教育	担当教員名	
学部・大学院	工学部	年次	4
科目区分	教職課程	単位数	2
時間割	前期 集中		
授業の目的・達成目標			
授業の目的：情報処理の教育を通じて、学習指導の目標、内容・方法、評価に対する基礎的知識及び教育方法・技術についての理解を深める。			
授業計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・教育の方法・技術と教育評価 ・教育内容と教育方法 ・認知目標と態度目標 ・生徒同士の教授の効果 ・学習指導方法 （文章を読む，コンピュータを利用する） ・まとめ ・試験 			
成績評価の方法と基準			
出席，レポートにより総合的に判断する。			
履修にあたっての注意事項および教室外における準備学習などの指示			
授業時間内の指示に従い、事前準備を行うこと。			
教科書			
別途指示する。			
参考書			
別途指示する。			
オフィスアワー			
別途指示する。			

授業科目名	特別活動	担当教員名	山本 いずみ
学部・大学院	工学部	年次	3
科目区分	教職課程	単位数	2
時間割	後期 集中		
授業の目的・達成目標			
<p>授業の目的：</p> <p>特別活動の意義と概要を理解し、指導の基本的な考え方と具体的な指導のあり方を考察する。1. 資料を基に、特別活動の歴史、意義や位置づけ、目標や内容等について考察する。2. 児童・生徒の実態や特別活動の具体例を題材に、指導・支援のあり方を考察する。3. 毎時間小レポートの提出が課せられる。また、授業中に意見発表が求められる。4. 毎回、授業内容の理解と授業の進め方について、学生による自己評価活動を行う。</p>			
授業計画			
1 学校教育と特別活動 2 特別活動の魅力 3 生徒の現状と特別活動 4 特別活動の歴史 5 特別活動の目標と内容 6 学級活動1 7 学級活動2 8 学級活動3 9 生徒会活動1 10 生徒会活動2 11 学校行事1 12 学校行事2 13 クラブ・部活動 14 ボランティア活動 15 試験 16 総括的討論			
成績評価の方法と基準			
1. 定期試験、レポートの成績、授業への積極的参加と、最終テストを基本に評価する。			
履修にあたっての注意事項および教室外における準備学習などの指示			
教科書			
別途指示する。			
参考書			
オフィスアワー			
別途指示する。			

授業科目名	生徒指導	担当教員名	
学部・大学院	工学部	年次	3
科目区分	教職課程	単位数	2
時間割	後期 集中		
授業の目的・達成目標			
<p>授業の目的：</p> <p>中学生・高校生に対する生徒指導進路指導はどうあるべきかを、具体的な事例や自己体験を通して理解させる。</p> <p>生徒指導はどうあるべきかについて、生徒の人格的発達形成を核に据えながら、生徒を取り巻く社会、生活から考え、成長を支援することの認識を持たせ、「自己実現」「社会的自立の側面」からキャリア支援の視点も加味して理解を深める。</p> <p>生徒指導の意義、事例を学ぶとともに、学生の体験発表、事例研究を取り入れ、討論、チームサポートなどのより、実践的な理解を透視して授業を行う。</p>			
授業計画			
<p>第1回：学習指導要領における生徒活動の位概づけ</p> <p>第2回：生徒指導、進路指導の意義</p> <p>第3回：教育相談の役割</p> <p>第4回：集団指導と個別指導</p> <p>第5回：不登校、いじめ問題への対応</p> <p>第6回：保護者、地域との連携</p> <p>第7回：生徒を主体とした学校への脱皮</p> <p>第8回：生徒指導上の法的謝（耀題と批判</p> <p>第9回：事例研究</p> <p>第10回：事例研究</p> <p>第11回：進路指導から</p> <p>第12回：学生によるパネルディスカッション</p> <p>第13回：学生によるパネルディスカッション</p> <p>第14回：キャリア教育問題</p> <p>第15回：試験</p>			
成績評価の方法と基準			
レポート、プレゼンテーション、出席点、試験を総合し、判定を行う。			
履修にあたっての注意事項および教室外における準備学習などの指示			
教科書			
その都度資料を配布する。			
参考書			
特に指定しない。			
オフィスアワー			
別途指示する。			

授業科目名	教育相談	担当教員名	
学部・大学院	工学部	年次	3
科目区分	教職課程	単位数	2
時間割	後期 集中		
授業の目的・達成目標			
<p>授業の目的：教職のなかで、生徒指導、教育相談、進路相談に関する生徒指導関連科目である。青年期に現れる問題行動を理解し、教員としてどのように対処・解決したらよいかを学ぶことを目標とする。</p> <p>第1に、生徒指導、学習指導、進路指導の意義を理解する。第2に、生徒の心身の問題や発達に対する至期縫深めるために翻題行動のある中学生・高校生の心理的側1 酪アセスメント、発達障害に関する知識を学ぶ。第3に、中学校・高校教員として生徒指導を行う場合に必要なカウンセリングの理論と技法を学ぶ。事例やロールプレーも適宜取り入れる。</p>			
授業計画			
<p>第1回：教育相談の意義と目的</p> <p>第2回：教育相談の方法</p> <p>第3回：教育相談に関わる心理的知識1</p> <p>第4回：教育相談に関わる心理的知識2</p> <p>第5回：教育相談で行うアセスメント1</p> <p>第6回：教育相談で行うアセスメント2</p> <p>第7回：問題行動の理解（事例1）</p> <p>第8回：問題行動の理解（事例2）</p> <p>第9回：軽度発達障害1</p> <p>第10回：軽度発達障害2</p> <p>第11回：軽度発達障害（事例1）</p> <p>第12回：軽度発達障害（事例2）</p> <p>第13回：カウンセリングの理解と教育相談における技法1</p> <p>第14回：カウンセリングの理解と教育相談における技法2</p> <p>第15回：カウンセリングの理解と教育相談における技法3</p>			
成績評価の方法と基準			
出席、レポートで総合的に判断する。			
履修にあたっての注意事項および教室外における準備学習などの指示			
教科書			
特になし。			
参考書			
プリント資料を適宜配布する。			
オフィスアワー			
別途指示する。			

授業科目名	教職実践演習（高）	担当教員名	上原直人、山本いずみ、 高木勇夫
学部・大学院	工学部	年次	4
科目区分	教職課程	単位数	2
時間割	後期 集中		
教員の連携・協力体制			
<p>教職に関する科目の専任・兼任教員を中心として、教科に関する科目担当教員を含めて構成する「教職実践演習担当WG」を設置し、教科・教職科目の履修状況についての意見交換を行い、授業計画の策定、テーマの設定、事例研究等の実施方法などを協議する。</p>			
授業の目的・達成目標			
<p>授業の目的：</p> <p>教育の意義や使命、教員の職責、専門分野の教科内容の把握、などの主要テーマに関して、講義、グループ討論、模擬授業、事例研究などを通じて修得し、教職への意欲を十分に理解し、教員として求められている基本的な資質能力を身につけることを目標とする。</p> <p>教職に関する科目や教科に関する科目の理解度の定着と向上を図るとともに、講義、グループ討論、模擬授業、事例研究、ロールプレイング等を組み合わせ、実際の教育現場を想定した教育課題を取扱うことを通じて、教員として求められる実践的な力量を修得させる。</p>			
授業計画			
第1回 インタロダクション・これまでの学習の振り返りについての講義・グループ討論			
第2回 教職の意義、教員の役割・職務内容についてのグループ討論			
第3回 社会性や対人関係能力についての講義・グループ討論			
第4回 生徒理解や学級経営についての講義・グループ討論			
第5回 学級経営案の作成・グループ討論			
第6回 社会性、対人関係能力、生徒理解、学級経営についてのグループ討論			
第7回 教科内容等の指導力についての講義・グループ討論			
第8回 教科内容等の指導力についてのグループ討論			
第9回 特別活動、教育方法・技術の指導力についての講義・グループ討論			
第10回 模擬授業とグループ討論			
第11回 教科内容、教育方法・技術の指導力についての事例研究・グループ討論			
第12回 教職の意義、教員の役割等についての事例研究・グループ討論			
第13回 社会性、対人関係等についての事例研究・グループ討論			
第14回 ロールプレーイングとグループ討論			
第15回 ロールプレーイングとグループ討論			
定期試験			
成績評価の方法と基準			
<p>グループ討論での参加状況、模擬授業・ロールプレーイングでの実技内容、試験の結果等を踏まえ、教員として最小限必要な資質能力が身に付いているかを確認し、単位認定を行う。</p>			

履修にあたっての注意事項および教室外における準備学習などの指示
教科書
プリントを配布する。
参考書
なし
オフィスアワー

授業科目名	事前・事後指導	担当教員名	上原 直人
学部・大学院	工学部	年次	4
科目区分	教職課程	単位数	1
時間割	前期 集中		
授業の目的・達成目標			
<p>授業の目的：教育実習において行う授業等の範囲について教案(学習指導案及び教材)の作成指導及び実際に作成した教案について発表させるとともに、相互の批判を行わせ、更に教案の質的向上を図るとともに意欲的に教案作成を行わせることを目的とする。</p>			
授業計画			
<p>①事前指導について</p> <p>ア 教育実習生に対するガイダンス及び教材作成</p> <p> a 時期及び期間 前期実施者は5月下旬、後期実施者は9月上旬の各2日間</p> <p> b 内容及び方法 あらかじめ、本学作成の「教育実習の手引き」をテキストに用い、「勤務上の諸注意」等、及び「先回の教育実習での問題点・反省点など」について講述する。</p> <p>イ 実習校等での機材研修</p> <p> a 時期及び期間 前期実施者は5月下旬、後期実施者は9月上旬の各2日間</p> <p> b 内容及び方法 工業の科目において実験・実習科目は重要な役割をもっており、実習校での訓練又は同種の機械等が本学があれば本学での訓練、化学系であれば実習校で使用できる範囲の機器での実験を行わせ、実習校の実験・実習が安全でかつ適正に機械・器具が使用でき、基礎的基本的な成果が得られるよう準備を行わせる。</p> <p>②事後指導について</p> <p>ア 時期及び期間 各期の教育実習終了後、1日</p> <p>イ 内容及び方法 教育実習後、高等学校から提出された「教育実習記録」、「教育実習生出勤簿」及び「教育実習評価表」をもとに、今回の教育実習に出席した本学学生の全体の特徴点、注意点及び各個人の代表的な問題点等について講述し、教員としての問題点・解決すべき点について講義を行う。</p>			
成績評価の方法と基準			
事前事後指導における質問・意見・実習報告により評価する。			
履修にあたっての注意事項および教室外における準備学習などの指示			
<p>第4年次学生であること。第3年次までの卒業に必要な所要単位を修得していること。 第3年次までの教職課程において、当該免許状の取得に必要な単位数を修得していること。 教員の志望者であること。</p>			
教科書			
教育実習の手引き			
参考書			
オフィスアワー			
別途指示する。			

授業科目名	教育実習	担当教員	上原 直人
学部・大学院	工学部	年次	4
科目区分	教職課程	単位数	2
時間割	前期 集中		
授業の目的・達成目標			
<p>授業の目的：教育実習は、教職課程の一環として、学生に教育の実際についての具体的な広い経験を与え、教育全般にわたってその基本的な理解、技術、態度を習得させようとすることを目的とする。</p>			
授業計画			
<p>① 教育実習の時期及び期間 実習時期は、6月上旬及び9月中旬の2週間とし、実習総時間数90時間中、観察参加30時間、実習に60時間を充てる。また、実習の授業担当時間数は、8時間以上とし、これに要する準備、反省、批判に残余の時間を用いる。</p> <p>② 教育実習の実施内容 ア 観察：生徒の個性、生活実態、学習指導、教育環境並びに学校経営についての観察 イ 参加：学校経営、学校行事、教科研究会、ガイダンス、レクレーション評価、ホームルーム等にわたっての参加 ウ 実習：実習指導、評価、生活指導に関する実習</p> <p>③ 教育実習の実施方法 実習校は、実習校と本学の関係教官で組織する「実習指導委員会」の計画に基づき、学科・指導教員の配当、指導授業、研究授業の計画並びに観察、参加を含めた実習計画書を作成して実施に当たる。</p>			
成績評価の方法と基準			
<p>教育実習担当教員が、実習校からの資料に基づき評価する。</p>			
履修にあたっての注意事項および教室外における準備学習などの指示			
<p>第4年次学生であること。第3年時までの卒業に必要な所要単位を修得していること。 第3年次までの教職課程において、当該免許状の取得に必要な単位数を修得していること。 教員の志望者であること。</p>			
教科書			
特になし。			
参考書			
オフィスアワー			
<p>教職課程の教育実習担当教員が、各専門学科の教員とともに指導に当たる。</p>			